



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 45 No. 4
August 2020**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ	
理事長就任の御挨拶	41
菅野新体制への期待	42
第23回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	44
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	46
認定試験受験資格のための評点表	48
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第5報）	50
第48回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）	52
2021年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領	53
2021年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	54
2021年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	54
2021年度日本毒性学会佐藤哲男賞（学術貢献賞）候補者推薦要領	55
第47回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	56

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

理事長就任の御挨拶

日本毒性学会理事長 菅野 純



2020年7月1日に第16代日本毒性学会理事長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

毒性学は、あらゆる経路で身体に入り込む種々の外来性物質 (xenobiotics), 特に文明活動が人々に有益であると考えて作り出す新規の物質, が引き起こす生体反応を明らかにし, 外来性物質からの被害を予測して未然に防ぐ学問であり, 最終目標を「人の安全」とするところの, 純粋科学, 応用科学及び社会科学の複合体と考えられます。

さて, 私が前回, 理事長を仰せつかった2012年は, 2011年3月の震災とそれに続く放射能禍問題が残る時期に当たっておりました。放射線に関するリスク評価とリスク管理の在り方, 集団リスクと個人が感じるリスクの差, 安全神話, 低線量ホルミシス, 「ゼロリスク」精神と安全安心問題などが, その後の毒性学の社会科学的課題となると考えられた時期でありました。遠藤仁先生の記された「[学会の使命・概要](#)」を引用し, 「学」, 「産」, そして「官」が合流し成長してきた本学会は, 「医」や「社」との連携を進める必然性を有する立場に置かれていると考えた次第です。お陰様で, 皆様のご理解と多大なご協力により「医」との連携強化の一つの成果として, 日本中毒学会との覚書交換, 学術年会における合同セッション, 大阪における学術年会の同時同所開催, JTSが日本中毒学会の英文雑誌として中毒学研究論文を掲載すること, 日本中毒学会の国際毒性学連盟 (IUTOX) への復帰, などが, 果たされました。

今回は, コロナ禍の最中に理事長を仰せつかりました。テレビ報道から得た知識の範囲内ですが, 科学者が行政の責任を負わされる事態が繰り返されておりました。科学者は情報とその解釈を発信するリスク評価までの立場を担い, リスク管理は本来, 別の立場の人間が責任を負って行うものであるのですが, 「専門家であるから」との理由で, 1人が2役を強いられるのが変わらぬ現状の様であります。[第84回日本循環器学会学術集会 記念対談 京大・山中 伸弥氏 × 北大・西浦 博氏](#) (2020年10月31日まで視聴可) の冒頭2分50秒ごろ～7分ごろにも, これらの問題が指摘されておりました。毒性学の分野, 特に化学物質のリスク管理については, その様な大事件が起

こらないことを祈っておりますが, その昔, 過酸化水素に発癌性があることを発表した研究者が社会的に怖い思いをしたという話をご本人から聞いたことを思い起こします。

日本毒性学会の定款には, 『(目的) 第2条 本会は毒性領域の研究の進歩発展を図ることを目的とし, 次の事業を行う。1. 学術集会の開催, 2. 会誌の発行, 3. トキシコロジストの教育及び資格認定, 4. その他上記の目的を達成するため必要な事業』とあります。

定款に鑑みて日本毒性学会の社会貢献の様態を考えますと, それは毒性領域の研究活動として推進するものである事が望まれます。認定トキシコロジストは, 現実的に社会貢献を含むと考えられますし, 指針値小委員会の活動は社会貢献に向けた一つのチャレンジとなっています。社会貢献活動を研究活動の範囲内に留め, リスク管理とは一線を画す必要があるかもしれませんが。リスク評価者の意図が齟齬なくリスク管理者に伝わるように毒性情報を整理調整する学問, 即ち「調整毒性学 Toxicology in Concert with Risk Management」という研究活動を確立することが提案されます。これには, 基礎研究, 応用研究, それらの結果の咀嚼の仕方, 取りまとめ方, といった幾つもの段階が必要であり, 丁度, 教育委員会が今後の課題として掲げている (1) 「トキシコロジー」改訂 (2) モノグラフ (毒科学の基礎と実際) へ向けた準備 (3) 毒性用語検討・トキシコロジー用語辞典 (4) リスクアセッサー講習会 (指針値小委員会と協議), 学術広報委員会が課題として掲げているホームページ上の用語集の発展的改定, などが, そして, 従来からの活動, IUTOX, Asiattox, SOT との連携, KSOT との連携, 日本学術会議・毒性学分科会, 部会活動, 連携学会との連携, 国内外との連携の拡大, などが, いずれも重要な基盤となります。

熊谷前理事長が築いてくださった強固な経済基盤と国際化の進展の上に, 学術研究活動をより一層発展させることで, 「毒性領域の研究の進歩発展を図ることを目的」としつつ, これを基盤としたゆるぎない立場をもって「社」, 即ち, 社会貢献をも更に推進できる日本毒性学会を皆様と共に構築していければと存じます。改めまして, ご支援のほど, お願ひ申し上げます。

菅野新体制への期待



はじめに

2020年6月30日から7月1日まで日本毒性学会年會が開催された。今年は新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で学会史上初めてOnlineによるWeb開催となった。熊谷嘉人理事長、広瀬明彦年會長、事務局の皆様、関係各位のご努力、ご尽力により年會は大成功のうちに無事終了した。會員の一人として心から御礼申し上げる。小生も3日間の會期中時々自宅から参加し、ご講演、ご発表を拝聴した。

7月1日の日本毒性学会総會において、菅野純理事長を中心とした新役員が誕生した。非常事態とも言えるパンデミックの真っ最中にご就任された菅野体制は、これから2年間平時には見られない多くの困難が予想される。

JSOTの国際的立ち位置

日本毒性学会（JSOT）は1980年に創立されたInternational Union of Toxicology（IUTOX）の設立會員学会（Founding member）の一つである。設立時の加盟学会は英国、EUROTOX、フランス、フィンランド、日本、カナダ、インド、米国、スウェーデンなどの9毒性学会である。現在IUTOXには約100学会が世界各国から加盟している。その中で、JSOTは今や米国SOTとともに世界のtoxicologyを牽引する立場にまで成長した。

一方、JSOTはアジア地域において毒性関係の情報交換と共同体を確立するために、アジア毒性学会の設立を提案し、1994年にAsian Society of Toxicology（ASIATOX）が創設された。メンバー学会は日本、韓国、中国、台湾、シンガポール、イラン、マレーシアの7学会である。JSOT理事会ではIUTOX、ASIATOX委員会を設置して担当理事を指名し、国際化の強化に努めている。

SOTとJSOTは姉妹学会だ

10年前までSOTは太平洋の向こうからJSOTの活動を疑心暗鬼の目で眺めていたが、最近のJSOT會員の優れた研究や、飛躍的国際化をみて認識を新たにした。

SOT President（2018-2019）であったDr. Leigh Ann Bums Maasは、2018年のSOT年會Program bookの中で、SOTとJSOTを“Sister Toxicology Association”と記している。これはJSOTに関するSOT理事会の共通した理解である。その証拠に、SOTではannual meetingのspecial sessionにJSOTからシンポジウムや特別講演のspeakerを招待する事が多くなった。同様に、JSOTでも熊谷前理事長の積極的なご提案により、毎年の年會ではSOTからspeakerを招待し、JSOT-SOTのJoint Sessionを企画している。JSOTとSOTの学术交流は年を重ねるごとに密になっていることは間違いない。

学会機関誌の果たす役割

SOTは創立当初機関誌としてToxicology and Applied Pharmacologyを出版し、その後Fundamental and Applied Toxicologyを新たに加えた。その後、これらを統合して現在のToxicological Sciencesとなった。一方、JSOTはその前身である毒作用研究会の機関誌であったThe Journal of Toxicological Sciences（JTS）を継続して刊行している。2017年までは隔月に発刊されていたが、Impact factorの向上をめざし、投稿論文の採択から掲載までの期間を短縮するため2018年1月より月刊とした。また、国際的価値を高めるために、国際的に著名な毒性学者をInternational Advisory Boardとして迎えた。さらに、2018年には鍛冶編集委員長のご英断で、紙ベースを廃止してオンライン化することとなった。優れた論文が収載されることにより引用回数も増えてImpact Factorは毎年上昇している。研究者の業績は研究内容を公表することにより完結する。

一方、2014年には永沼章前JTS編集委員長のご発案で、速報誌としてFundamental Toxicological Sciences（Fundam. Toxicol. Sci.）が発刊された。現代は新しい情報が瞬時に世界を駆け巡る時代である。そのためには少しでも早く情報を公開することが、研究のプライオリティーを確保する点で極めて重要である。その目的で速報誌の意義は大きい。本誌は毒性学全般にわたる研究成果を掲載するオープンアクセスの電子学術雑誌であり、J-Stageにも収載されている。

おわりに

科学の進歩は予想した以上に速い。それに乗り遅れない様にグローバルな視野で研究を進めるためには、高いアンテナでその動きを追跡することが必要だ。

JSOT は毒性学において世界のリーダーとしてその役割を果たして貰いたい。

菅野理事長においてはこれまで培われた IUTOX President をはじめ豊富な国際的センスによるご経験と、抜群の科学的嗅覚により新理事会をさらに活性化してほしい。決して COVID-19 に感染して嗅覚を失うことのないように2年間の任期を全うすることを祈念して筆を擱く。

謝辞: 今回寄稿の機会を与えて頂いた鍛冶編集委員長に深謝する。

佐藤 哲男
JSOT 名誉会員
千葉大学名誉教授

第23回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会

教育委員会委員長 鈴木 睦
認定試験小委員会委員長 古川 賢

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は毒性学ニュースまたは学会ホームページに掲載の「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」を熟読の上、出願して下さい。なお、今年度につきましては、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、試験を中止する場合、及び受験者数を制限する場合がありますので、ご了解ください（制限する場合は、出願受付順とさせていただきます）。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規程に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の3日前までに受験票をご本人宛送付いたします。試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

日本語・英語のいずれか言語での受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. 日 時

2020年9月27日（日）（9：45～17：00 予定）
予備日 10月3日（土）

台風等の自然災害により9月27日に試験開催が困難であると判断した場合に、予備日に実施します。なお、試験開催を延期する場合には、2日前（9月25日17時）までに受験者へご連絡いたします。

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス
4号館5階500号/6階600号教室（予定）
（東京都品川区旗の台1-5-8）
*東急池上線・大井町線
旗の台駅東口下車 徒歩5分

3. 出願期間

2020年7月17日（金）～8月17日（月）（必着）

4. 出願書類

- 1) 願書と受験者確認票
- 2) 写真2枚（縦3.5cm × 横3cm）
※6ヶ月以内のもの
（願書と受験者確認票の所定欄に貼付）
- 3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料
出願時には次のことにご注意下さい。
・会員歴：出願時にJSOTの会員であること
・研究歴
詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」をご覧ください。
出願書類は記録の残るもの（書留、信書便等）でお送り下さい。

5. 受験料

30,000円
8月25日に実施判断した場合、事務局より受験資格ありと判断された方に、お振込みのご案内をいたします。
ご入金期間：9月1日～11日
※領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証にかえさせていただきます。
（通信欄に会員番号を明記下さい）
※コロナウイルス感染拡大により、試験を中止した場合、及び受験ができなかった場合には、受験料を返還いたします。
※最新の情報は学会ホームページに掲載いたします。ご確認をお願いいたします。

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局
認定試験小委員会
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム内
TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555
E-mail: jsotq@jsot.jp

----- 切 り 取 り 線 -----

第23回日本毒性学会 認定トキシコロジスト認定試験受験者確認票

写真貼付欄
※6ヶ月以内のもの

受験番号

氏 名

（氏名をご記入下さい）

日本語受験 英語受験 （希望する方に✓を入れてください）

Application Form Guidance Notes about the 23rd Certification Examination for Diplomate of the JSOT

The Japanese Society of Toxicology (JSOT)
 Chair of Education Committee: **Mutsumi Suzuki**
 Chair of Certification Examination Subcommittee: **Satoshi Furukawa**

We would like to inform you that the 23rd certification examination for the diplomate of the JSOT will be conducted in the following manner:

Applicants are requested to submit application documents after careful reading of "Regulations on the Certification Program for Diplomate of the Japanese Society of Toxicology (JSOT)" presented in Toxicology News or on the homepage of the society.

Please note that, for the purpose of preventing the spread of coronavirus infection, there are possibilities that this year's examination would be discontinued, or the number of examinees might be limited. In case that number of examinees may be limited, the examinees will be accepted in an order of application. If you do not reach the prescribed level at the screening of application documents shown in the above regulations, you cannot take the certification examination. Therefore, please take a great care for applying.

When you are qualified for the certification examination, we will send you an admission ticket no later than 3 days prior to the examination. You must bring the admission ticket to the examination.

You can take the certification examination in English from this time. If you want to do so, please check the box of requesting the examination in English in the application form.

1. Schedule

September 27, 2020 (Sunday) 9:45 – 17:00

In case that it is considered difficult to conduct an examination due to a natural disaster such as a typhoon, a spare date will be October 3, 2020 (Saturday).

Whether to postpone the examination will be informed to the examinees by 17:00 on September 25, 2020.

2. Venue of the examination

Hatanodai Campus of Showa University
 At Room No. 500 on the 5th floor or Room No. 600 on the 6th floor, Building No. 4 (1-5-8 Hatanodai, Shinagawa-ku, Tokyo)
 * Take Tokyu Ikegami Line or Oimachi Line, then get off at East Exit of Hatanodai Station and walk for 5 minutes.

3. Application period

Open from July 17 (Thursday), no later than August 17 (Monday), 2020

4. Application documents

- 1) Application form and examinee's identification form
- 2) 2 face photos* (3.5 cm height × 3 cm width)
 (To be pasted to the appropriate spaces of the application form and examinee's identification form.)
 *Within 6 months
- 3) Score table of eligibility for admission to certification examination and data to prove confidence of self-rated scores
 Please make sure the following when you apply for the examination:
 - Member history: applicants must be JSOT members at the time of application
 - Research history
 Detailed information is provided in the Program for Diplomate of the Japanese Society of Toxicology (JSOT). You are expected to send application documents by a method that keeps a historical record (registered mail, confidential correspondence delivery, etc.).

5. Examination fee

- ¥30,000
 Payment will be instructed to the examinee who is qualified for the certification examination by secretariat. Judgement for conducting the examination will be done on August 25. Period for payment is September 1 to 11.
 *Transfer Payment Invoice and Receipt will be used as a receipt of the examination fee.
 (Please write Membership No. in the message column of the Payment Slip.)
 *Examination fee will be refunded if the examination is cancelled or examinee cannot take the examination due to the spread of coronavirus infection.
 *Please check the homepage of JSOT for the latest information.

6. Address for application submission

Certification Examination Subcommittee
 Bureau of The Japanese Society of Toxicology
 in Mainichi Academic Forum Inc.
 Palace Side Building, 1-1-1, Hitotsubashi, Chiyoda-ku,
 Tokyo 100-0003, Japan
 Phone: +81-3-6267-4550 Fax: +81-3-6267-4555
 E-mail: jsothq@jsot.jp

C u t o f f l i n e

Examinee's Identification Form for the 23rd Certification Examination for Diplomate of the JSOT

Please paste your recent face photo within 6 months

Examinee's No. _____
 Name _____
 (Please fill-in your name)
 Examination in: English Japanese
 (Please check the language in which you want to take the exam)

日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書

年 月 日提出

ふりがな
氏名：

会員番号：

生年月日：西暦 年 月 日（ 歳）

所属機関：

職名：

学歴：

高等学校卒業 短期大学等卒業 4年制大学等卒業 6年制大学等卒業

(該当する□にチェック)

写真貼付欄
※6ヶ月以内に
撮影したもの

卒業年	学校名および学部学科等
西暦 年 月	
西暦 年 月	
西暦 年 月	
卒業後 年 カ月	

注：大学院を含まない

毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間：

期間（西暦）	年数	職歴（企業名），大学院等
年 月～ 年 月	年 カ月	
年 月～ 年 月	年 カ月	
年 月～ 年 月	年 カ月	
年 月～ 年 月	年 カ月	
年 月～ 年 月	年 カ月	
通算 年 カ月	注：修学期間，就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない	

*受験する言語の選択：日本語版 英語版*受験票送付先：所属機関 自宅

〒

住所：

電話：

FAX：

E-mail：

(お持ちの方は必ずご記入下さい)

*緊急連絡先：

Application Form for Certification Examination for Diplomate of the JSOT

Date submitted: / / (MMM/DD/YYYY)

Name: _____

Membership No. : _____

Date of birth: / / (MMM/DD/YYYY) (years old)

Affiliated institution: _____

Job title: _____

Education: (Graduated from the following:)

High school Junior college 4-Year university 6-Year university

(Please check the appropriate box.)

Please paste your recent face photo within 6 months.

Year of graduation	Names of the school, faculty, department, etc.
/ (MMM/YYYY)	
/ (MMM/YYYY)	
/ (MMM/YYYY)	
year(s) and month(s) after graduation	Note: Please do not include graduate school

Toxicology-related work experiences and research periods at graduate schools, etc.:

Period	Duration	Work experience, graduate schools, etc.
/ (MMM/YYYY) to / (MMM/YYYY)	year(s) and month(s)	
/ (MMM/YYYY) to / (MMM/YYYY)	year(s) and month(s)	
/ (MMM/YYYY) to / (MMM/YYYY)	year(s) and month(s)	
/ (MMM/YYYY) to / (MMM/YYYY)	year(s) and month(s)	
/ (MMM/YYYY) to / (MMM/YYYY)	year(s) and month(s)	
Total: year(s) and month(s)	Note: Please avoid overlap among each period.	

* Do you want to take the examination in English or Japanese? English Japanese

* Preferred address to send the examination authorization slip: Affiliated institution Home

Zip code:

Address:

Phone:

Fax:

E-mail:

* Emergency contact details:

認定試験受験資格のための評点表

「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」の付表（脚注に注意）を参考に自己採点の上，下表（評点表）の該当箇所に評点を記入して下さい。

なお，下表中の論文についてはそのコピーを，学会等参加については参加証のコピーを，学会等発表については学会開催年を付記した講演要旨のコピーを，また，講習会については参加証のコピーを，それぞれ証明資料として添付して下さい。

（評点表にも忘れずに氏名と所属機関をご記入下さい）

氏名：

所属機関：

種別	評点項目	評点
論文	毒性学関連論文 ^{1),2)}	
学会活動	JSOT 学術年会	発表 ¹⁾
		参加
	毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	発表 ¹⁾
		参加
講習会等	基礎教育講習会	
	JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	
合計		

1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については10点，それ以外の共同発表の場合は5点とする。

2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。

3) IUTOX 定期総会（ICT），ASIATOX 定期総会，SOT 年会，EUROTOX 年会，日本安全性薬理研究会，日本衛生学会，日本環境変異原学会，日本産業衛生学会，日本獣医学会，日本実験動物学会，日本製薬医学会，日本先天異常学会，日本中毒学会，日本毒性病理学会，日本内分泌攪乱化学物質学会，日本免疫毒性学会，日本薬学会，日本薬物動態学会，日本薬理学会，JSOT に設置された部会の学術集会

4) JSOT 生涯教育講習会等

Score Sheet of Eligibility for Admission to the Certification Examination

Please make sure that your total score is over 80, using following score sheet. Please refer to the appendix of “Regulations on the Certification Program for Diplomate of the Japanese Society of Toxicology (JSOT)”, which is also described in the footnotes.

Please attach evidence of each category score: articles; photocopies of certificates for attendance to academic conferences, educational lecture, etc.; and photocopies of abstract for presentations (please add holding years of the conferences).

Please do not forget to write your name and affiliated institute below in this sheet.

Name:

Affiliated institute:

Category	Scoring item	Score
Article	Toxicology-related articles ^{1), 2)}	
Academic activity	JSOT annual meeting	Presentation ¹⁾
		Participation
	Annual meeting of toxicology-related academic society ³⁾	Presentation ¹⁾
		Participation
Educational lecture, etc.	JSOT fundamental education course	
	Lecture, etc. sponsored or authorized by JSOT ⁴⁾	
Total		

1) Ten points awarded for the first author or corresponding author, and 5 points for authors of joint publications.

2) Journals should be limited to those having a peer-review system.

3) IUTOX International Congress of Toxicology (ICT), ASIATOX regular general meeting, SOT annual meeting, EUROTOX annual meeting, Congresses of Japanese Safety Pharmacology Society, The Japanese Society for Hygiene, The Japanese Environmental Mutagen Society, Japan Society for Occupational Health, The Japanese Society of Veterinary Science, Japanese Association for Laboratory Animal Science, The Japanese Association of Pharmaceutical Medicine, The Japanese Teratology Society, Japanese Society for Clinical Toxicology, Japanese Society of Toxicologic Pathology, Japan Society of Endocrine Disruptors Research, The Japanese Society of Immunotoxicology, The Pharmaceutical Society of Japan, The Japanese Society for the Study of Xenobiotics, The Japanese Pharmacological Society, and Scientific meeting organized by JSOT subcommittee

4) JSOT continuing education course, etc.

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第5報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。なお、学会主催講習会として、幅広い領域にまたがるトキシコロジーに関する基礎知識を体系的に集中学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての多領域にわたる知識をブラッシュアップしながら新たな技術、課題などをインプットする生涯教育講習会を開催いたします。

「第23回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。なお、本年度はコロナウイルス感染症対応策といたしまして、以下のスケジュールで進めさせていただきます。

1. 日時

2020年9月27日（日）（9：45～17：00 予定）
予備日10月3日（土）

台風等の自然災害により9月27日に試験開催が困難であると判断した場合に、予備日に実施します。なお、試験開催を延期する場合には、2日前（9月25日17時）までに受験者へご連絡いたします。

2. 会場

昭和大学 旗の台キャンパス
4号館5階500号/6階600号教室（予定）
（東京都品川区旗の台1-5-8）
* 東急池上線・大井町線
旗の台駅東口下車 徒歩5分

3. 出願期間

2020年7月17日（金）～8月17日（月）（必着）

4. 出願書類

1) 願書と受験者確認票

2) 写真2枚（縦3.5cm × 横3cm）

※6ヶ月以内のもの

（願書と受験者確認票の所定欄に貼付）

3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

- ・ 会員歴：出願時にJSOTの会員であること
- ・ 研究歴

詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの（書留、信書便等）でお送り下さい。

5. 受験料

30,000円

8月25日に実施判断した場合、事務局より受験資格ありと判断された方に、お振込みのご案内をいたします。

ご入金期間：9月1日～11日

※領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証にかえさせていただきます。

（通信欄に会員番号を明記下さい）

※コロナウイルス感染拡大により、試験を中止した場合、及び受験ができなかった場合には、受験料を返還いたします。

※最新の情報は学会ホームページに掲載いたします。ご確認をお願いいたします。

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

認定試験小委員会

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム内

TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555

E-mail: jsotq@jsot.jp

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2000年、2005年、2010年、2015年、認定トキシコロジストに認定された方（認定トキシコロジストNo.171～194, 304～325, 457～480, 577～627）は、2020年が更新の時期となります。更新手続きの詳細は、希望対象者宛に2020年7月頃に郵送いたしました。締切は9月18日（金）です。

毒性学ニュース，学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は6月上旬に発送し，締め切りは8月17日（月）です。なお，可能な限り，2018年5月発刊の「第3版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。

第48回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）

（年会ホームページ：<http://www.jsot2021.jp/>）

1. 会期

2021年7月7日（水）～7月9日（金）

2. 会場

神戸国際会議場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1

TEL：078-302-5200

URL：<https://kobe-cc.jp/ja/facilities/conference-center/>

神戸商工会議所

〒650-8543 神戸市中央区港島中町6-1

3. テーマ

Beyond the crisis - 生命の存続に貢献する毒性学

4. 年会長

福井 英夫（Axcelead Drug Discovery Partners, Inc.）

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

朝倉 省二（エーザイ（株））

石塚真由美（北海道大学）

小川久美子（国立医薬品食品衛生研究所）

小椋 康光（千葉大学）

鍛冶 利幸（東京理科大学）

菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所）

北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）

熊谷 嘉人（筑波大学）

小林 章男（日本たばこ（株））

佐藤 雅彦（愛知学院大学）

篠澤 忠紘（武田薬品工業（株））

渋谷 淳（東京農工大学）

杉山 圭一（国立医薬品食品衛生研究所）

鈴木 睦（協和キリン（株））

角 大悟（徳島文理大学）

高橋 祐次（国立医薬品食品衛生研究所）

角崎 英志（新日本科学（株））

直田みゆき（医薬品医療機器総合機構）

栗形麻樹子（国立医薬品食品衛生研究所）

広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）

堀井 郁夫（ファイザー）

真木 一茂（医薬品医療機器総合機構）

松本 清（武田薬品工業（株））

三島 雅之（中外製薬（株））

宮脇 出（大日本住友製薬（株））

森 和彦（第一三共（株））

山田 久陽（大正製薬（株））

吉岡 靖雄（大阪大学）

吉成 浩一（静岡県立大学）

6. 一般演題募集

一般演題（口演およびポスターでの発表）を2020年12月下旬から受け付ける予定です。

発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。

日本毒性学会ホームページ：<http://www.jsot.jp>

7. 優秀研究発表賞応募演題

2021年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。

8. 学生ポスター発表賞応募演題

学術年会（2021年7月7日（水））の時点で学生（大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く）のポスター発表（筆頭著者）の方を対象として候補者を募集します。

※7、8の賞への重複申請は不可とします。

9. 特別企画

年会長招待講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、キャリア形成支援プログラム、市民公開セミナーを企画予定です。

10. ランチョンセミナーなどの募集

ランチョンセミナー、広告掲載、企業・関連団体展示を募集します。詳細については追ってご案内します。

11. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。

詳細についてはホームページをご覧ください。

年会ホームページ：<http://www.jsot2021.jp/>

12. 年会事務局

〒251-0012 神奈川県藤沢市村岡東二丁目26番地の1 Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社

事務局長：大塚 博比古

事務局次長：吉田 唯真、林 良太

E-mail：secretariat@jsot2021.jp

2021 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格：日本毒性学会非学会員。

推薦者の資格：日本毒性学会理事 1 名。

表彰：授賞者数は毎年, 最大 1 名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000 字以内）
- ・特別賞の対象となる業績目録：原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2020 年 12 月 31 日（木）

2021 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2021 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2021 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000 字以内）
- ・学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J.Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去 5 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2020 年 12 月 31 日（木）

2021 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に 3 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 40 歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 3 名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2021 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2021 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000 字以内）
- ・奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J.Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去 3 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2020 年 12 月 31 日（木）

2021 年度日本毒性学会佐藤哲男賞（学術貢献賞） 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会佐藤哲男賞（学術貢献賞）を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年、最大1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名、授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・佐藤哲男賞の対象となる業績目録：原著論文、総説・著書、主催、発表等

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2020年12月31日（木）

第47回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第47回日本毒性学会学術年会の要旨集を1部3,500円(税・送料込)で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会(第32回以降)の要旨はオンライン(J-STAGE)でも閲覧が可能です(<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>)。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500円 (1部)

通信欄記入事項：①住所 ②氏名(団体の場合は機関名・部署等) ③電話番号
④第47回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイドビル
株式会社毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

特に重要な変更があった場合は、毒性学ニュースで周知を図ることとします。

- 一般社団法人日本毒性学会 定款
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（学術貢献賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

新しい発見を 変わらない品質で

私たち日本クレアは、生命のあらゆる可能性を探求し発展させる基盤として、動物愛護のグローバルな視点に立った世界最高品質の実験動物を提供して参ります。



マウス・ラット・マーモセット

● クローズドコロニー

- マウス** Jcl:ICR
- ラット** Jcl:SD, Jcl:Wistar
Br/Han:WIST@Jcl(GALAS)

● 近交種

- マウス** C3H/HeNjcl, C3H/HeJjcl*
C57BL/6Njcl, C57BL/6Jjcl*
BALB/cAjcl, BALB/cByJjcl*
FVB/Njcl, DBA/2Jjcl*, 129^{+Ter}/Svjcl
- ラット** F344/Jcl

● ハイブリッド系

- マウス** B6C3F1/Jcl, B6D2F1/Jcl
MCH(ICR)/Jcl (Multi Cross Hybrid)

● 疾患モデル

免疫不全モデル

- マウス** BALB/cAjcl-*nu*
C.B-17/1cr-*scid* Jcl
NOD/Shijic-*scid* Jcl
ALY[®]/Nscjcl-*aly*

- ラット** F344/Njcl-*rnu*

1型糖尿病モデル

- マウス** NOD/Shijcl

2型糖尿病モデル

- マウス** KK/Tajcl, KK-A^y/Tajcl
BKS.Cg-*m*+/*Lepr^{db}*/Jcl*

- ラット** GK/Jcl, SDT/Jcl, SDT fatty/Jcl

アスコルビン酸合成能欠如モデル

- ラット** ODS/Shijcl-*od*

● 疾患モデル

網膜変性疾患モデル

- ラット** RCS/Jcl-*rdy*

関節リウマチモデル

- マウス** SKG/Jcl

外用保湿剤・外用殺菌消毒薬効果検証モデル

- マウス** NOA/Jcl

● 遺伝子改変動物

短期発ガン性試験モデル

- マウス** CByB6F1-Tg (HRAS)2Jic

乳腺がん高感受性モデル

- ラット** Hras128/Jcl

膵がん短期発がんモデル

- ラット** Kras301/Jcl

生体恒常性維持機構解析モデル

- マウス** *α*-Klotho KO/Jcl

- マウス** *klotho*/Jcl

アレルギーモデル

- マウス** OVA-IgE/Jcl (卵アレルギー)
TNP-IgE/Jcl (化学物質アレルギー)

● Germ free

- マウス** MCH(ICR)/Jcl [Gf], C57BL/6Njcl [Gf]
BALB/cAjcl [Gf]

● コモンマーモセット

- Jcl:C.Marmoset(Jic) (国内生産)

その他の取り扱い動物

● (公財) 実験動物中央研究所維持系統

● フェレット (輸入販売)

生産地：中華人民共和国／輸入販売代理店
(株)野村事務所を通じて国内販売

実験動物用飼料

一般動物用飼料／家畜・家禽試験用飼料／放射線減菌飼料／特殊配合飼料／成分分析

器具・器材

飼育ケージ／飼育機・ラック／自動飼育システム／クリーンエアシステム／バイオハザード対策システム／空調設備・排水処理システム／管理・実験機器／施設計画コンサルティング

受託業務

微生物学的クリーニング／遺伝子改変マウスの作製／モノクローナル抗体作製／受精卵採取・凍結処理／凍結受精卵の供給／系統維持及び生産／各種処置動物作出／マイクロバイオーム研究のサポート(無菌動物・ノトバイオームマウス作製および受託試験)／各種受託試験 他

関連業務

動物輸出入／微生物モニタリング／遺伝モニタリング／各種データ／情報サービス

業務提携

Physiogenex社(仏)：代謝性疾患領域に特化した薬効薬理試験受託サービス
(株)ジーピーシー研究所：イメージングマウスの作製サービス

* This substrain is at least (a number>20 by definition) generations removed from the originating JAX® Mice strain and has NOT been re-infused with pedigreed stock from The Jackson Laboratory.®



www.CLEA-Japan.com

東京 A D 部 〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7 TEL.03-5704-7050(代)
大阪 A D 部 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町6-5 TEL.06-4861-7101(代)
【動物・飼料のご注文先: AD受注センター TEL.03-5704-7123】
東京器材部 〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7 TEL.03-5704-7600(代)
大阪器材部 〒564-9953 大阪府吹田市江の木町6-5 TEL.06-4861-7105(代)
札幌出張所 〒063-0849 札幌市西区八軒九条西10-4-28 TEL.011-631-2725(代)
仙台出張所 〒983-0014 仙台市宮城野区高砂1丁目30-24 TEL.022-352-4417(代)

医薬品開発をトータルにサポート

基礎検討試験

前臨床試験

臨床試験

薬物動態試験

- High Quality -

高品質なデータの提供

- Globalization -

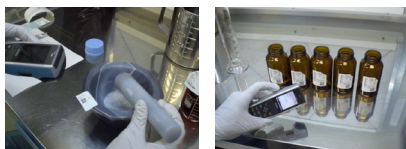
グローバルな事業展開

- Prompt Response -

迅速なサービスの提供

充実した支援体制

- AAALAC International (国際実験動物ケア評価認証協会) 認証
- FDA IND/NDA電子化申請対応 (CDISC SEND)
- バーコードによるミス防止システム
- 世界中どこからでも閲覧可能



Leica Aperio AT2



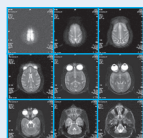
カニクイザル眼球HE染色

最新機種の導入

- MRI



Siemens Allegra 3.0T



カニクイザル
頭部
(T2WI)

- デジタルPCR



QX200 AutoDG

- 超高感度
イムノアッセイ



SMC×PRO

お問い合わせ先

株式会社新日本科学

<https://www.snbl.co.jp/>

Email: info@snbl.co.jp

TEL: 03-5565-6140



ケー・イー・シーでは医薬品の研究・開発にお使いいただける細胞・ヒト由来試料を取扱っております

研究用試薬

▶ HepaRG®・初代肝細胞



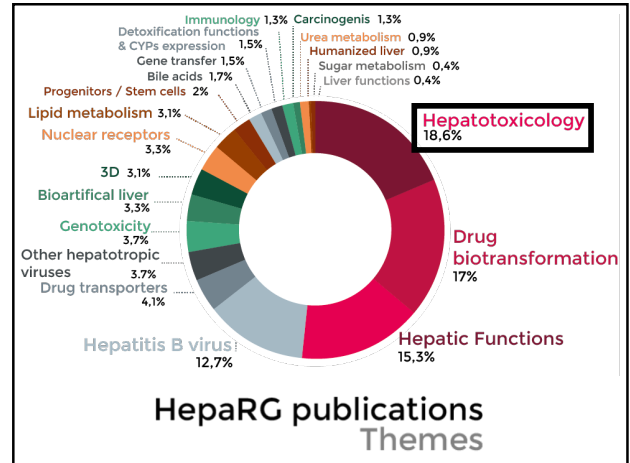
HepaRG®は、BIOPREDIC International社がライセンスを保有するヒト肝細胞セルラインです。肝細胞様形態を呈し、各種肝機能を保持・発現しており、ヒト初代肝細胞の代替ツールとして毒性試験および薬物動態などに広く利用されています。

【HepaRG®は様々な毒性評価に使用可能！】

- ①ミトコンドリア毒性の評価
- ②反応性代謝物による肝毒性評価
- ③炭水化物および脂質代謝評価
- ④胆汁うっ滞の評価

■ HepaRG®を使用した論文が多数発表されている中、毒性試験で多く使用されています！

また、弊社ではBIOPREDIC International社をはじめとして、様々なメーカーで調製された品質の良い初代肝細胞（ヒト、ラット、イヌ、サル等）もご用意しております。



▶ ECACC標準株細胞・核酸製品

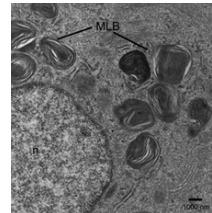
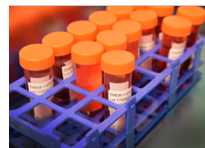


欧州最大の公的セルバンクであるECACCのセルリソース（標準株細胞・核酸製品）を、KAC独自のサービスとともに、**面倒な手続きなし***でお届けしています。

*：一部の細胞は、提供にあたり確認審査が必要になります。

【メリット！】

- ①スタンダードな株細胞は国内に常時在庫
- ②プラス5,000円で、培養状態での提供可能
- ③幾つかの起眠が難しい細胞はKACが代行
- ④KACによる迅速な技術サポート体制



▶ 肝毒性・腎毒性評価の受託試験



薬物トランスポーター研究のパイオニアであるSOLVO Biotechnology社にて、肝毒性・腎毒性評価試験などのサービスの提供も行っております。

【試験例】

- ①代謝が遅い化合物の肝毒性評価（ヒト、サル、ラット、イヌ）
（HepatoPac®：初代肝細胞と間質細胞のマイクロパターン共培養にて評価）
- ②早期腎障害バイオマーカーパネルを用いた腎毒性の可能性の評価 等





<https://www.saibou.jp/>

▶これらの製品情報を細胞.jpでお調べ頂けます



株式会社 ケーイーシー

<https://www.kacnet.co.jp/>

お問い合わせ先
試薬事業部

TEL:06-6435-9747 FAX:06-6435-9748
e-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp

SLCの実験動物



マウス

- **アウトブリード**
Slc: *cdy*
☆ RCS
Slc: ICR
- **インブリード**
DBA/1JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)
BALB/cCrSlc
C57BL/6NcrSlc-C57BL/6JmsSlc
C3H/HeSlc
C3H/HeNslc
C3H/HeJYokSlc
DBA/2CrSlc
NZW/NSlsc
A/JmsSlc
AKR/NSlsc
NC/NgaSlc(薬物・アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)
CBA/NSlsc
129x1/SvJmsSlc
- **B10コンジュニック**
C57BL/10SnSlc
B10.A/SgSnSlc
B10.D2/SgSnSlc
B10.S/SgSlc
- **ハイブリッド**
B6D2F1/Slc(Slc:BDf1)
CB6F1/Slc(Slc:CBF1)
CD2F1/Slc(Slc:CDf1)
B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)
※上記以外の系統については御相談ください。
- **ヌードマウス(ミュータント系)**
BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1^{nu}*)
KSN/Slc(*Foxn1^{nu}*)
- **疾患モデル**
BXSB/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)
C3H/HeJmsSlc-*Jpr*(自己免疫疾患-*Fas^{gpr}*)
C57BL/6JSlc-*gld*(自己免疫疾患-*Fas^{gld}*)
C57BL/6JmsSlc-*Jpr*(自己免疫疾患-*Fas^{gpr}*)
MRL/MpJmsSlc-*Jpr*(自己免疫疾患-*Fas^{gpr}*)
NZB/NSlsc(自己免疫疾患)
NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)
WB6F1/Ki-*Ki^{gpr}*/Slc(肥満細胞欠損血-*Ki^{gpr}*)
WB6F1/Ki-*Ki^{gld}*/Slc(肥満細胞欠損血-*Ki^{gld}*)
NG/Nga(皮膚炎)
☆ Hos: HR-1(ヘアレスマウス)
☆ Hos: HRM-2(メラニン保有ヘアレスマウス)
★ SAMR1/TaSlc(非胸腺リンパ腫-SAM系対照動物)
★ SAMP1/SkuSlc(老化アミロイド症)
★ SAMP6/TaSlc(老年性骨髄腫)
★ SAMP8/TaSlc(学習・記憶障害)

- ★ SAMP10/TaSlc(脳萎縮を伴う学習・記憶障害)
AKITA/Slc(糖尿病)
- ☆ TSOD(2型糖尿病)
C57BL/6JHamSlc-*ob/ob*(肥満・2型糖尿病-*Lep^{ob}*)
C57LKS/*Jlcr-+Lep^{ob}*/+*Lep^{ob}*(肥満・2型糖尿病-*Lep^{ob}*)
- ☆ NSY/Hos(2型糖尿病)
C57BL/6JHamSlc-A/+ (肥満)
HIGA/NscSlc(1gA腎症)
C.KOR/StmSlc-Apoe^{0/0}(アポE欠損高脂血症-Apoe^{0/0})
C.KOR/StmSlc-Tra3ip2^{0/0}(アトピー性皮膚炎マウス-Tra3ip2^{0/0})

ラット

- **アウトブリード**
Slc: SD
Slc: Wistar
Slc: Wistar/ST
Hos: Doreyu
- ☆ lar: Wistar(Wistar-Imamichi)
- ☆ lar: Long-Evans
- ☆ lar: Copenhagen(前立腺癌遺伝子)

- **インブリード**
F344/NSlsc
WKAH/HkmSlc
BN/SsNSlsc
DA/Slc(薬物誘導性関節炎)
LEW/SsNSlsc(薬物誘導性関節炎)

- **疾患モデル**
★ SHR/Izm(高血圧)
★ SHRSP/Izm(脳卒中)
★ WKY/Izm(SHR/Izmのコントロール)
★ SHRSP/Dmcr(NASHモデル【HFC飼料給餌】)
★ SHR/NDmcr-*cp/cp*(肥満・糖尿・高血圧-*Lep^{ob}*)
★ SHRSP/Ezo(AD/HD)
★ SHRSP/IDmcr-*fa/fa*(肥満・高血圧・脳血管障害-*Lep^{ob}*)
DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)
DIR/EisSlc(食塩抵抗性)
Slc: Zucker-*fa/fa*(肥満-*Lep^{ob}*)
☆ Hos: ZFDM-*Lep^{ob}*(糖尿・肥満)
HWY/Slc(ヘアレスラット)
☆ Hos: OLETF(2型糖尿病)
☆ Hos: LETO(OLETFのコントロール)

モルモット

- **アウトブリード**
Slc: Hartley

ウサギ

- **アウトブリード**
Slc: JW/CSK
Slc: NZW

ハムスター

- **アウトブリード**
Slc: Syrian
- **疾患モデル**
J2N-k(心筋症モデル)
J2N-n(J2N-kのコントロール)

スナネズミ

- **インブリード**
MON/Jms/GbsSlc

無菌動物(ラット)

- **ラット**
- **インブリード**
F344/NSlsc(GF)

エンヴィーゴ(旧ハランOEM生物動物)

- **アウトブリードラット**
RocHan®: WIST
- **インブリードマウス**
CBA/CaOlaHsd
- **免疫不全モデルマウス**
C.B-17/1crHsd-*Prkdc^{0/0}*

遺伝子改変動物

- **マウス**
C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)
C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpr* delta)
- **ヌードマウス**
C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP/EGFP全身発現ヌードマウス)
- **ラット**
SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)
F344/NSlsc-Tg(*gpr* delta)
Slc:WistarHanover/Rcc-Tg(*gpr* delta)

その他(conventional動物)

- **ビーグル犬**
☆ 国内繁殖生産(一財)動物繁殖研究所)
- **カニクイザル**
☆ カニクイザル(輸入)
- **ミニブタ**
☆ 国内繁殖生産
(一財)日生研・NPO法人医用ミニブタ研究所)

● マイクロミニビッグ

- ☆ 国内繁殖生産(富士マイクラ(株))
- **フェレット**
自家繁殖生産(中伊豆支所)
- ★ 印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。

受注生産動物

マウス

- **疾患モデル**
C3H/HeJmsSlc-*cid*(自己免疫疾患動物-*Fas^{cid}*)
C57BL/6 JHamSlc-*bg/bg*(NK細胞活性低下)
CTS/Shi(免疫不全・内臓)
(NZW×BXSB)F1/Slc(紫斑症)

ラット

- **インブリード**
AC1/NSlsc
- **疾患モデル**
Daf^{NS}/Z-*Lep^{ob}*/Slc
GK/Slc(2型糖尿病)
EHBR/EisSlc(高ビリルビン尿症)
PVG/SeaSlc
KDP1(型糖尿病-*CtHh*)
WBN/KobSlc(高血糖好発)
WBN/KobSlc-*fa/fa*(高血糖好発-*Lep^{ob}*)
NAR/Slc(無アルブミン症)
NERI(自発性糖尿病・慢性腎臓病・腎臓不全)
DA/Slc-*tg/tg*(NK細胞機能低下)
SDR(矮小体症ラット)
OM/NSlsc(栄養摂取・腎臓病)
FH/HamSlc(脳内ドパミン系の機能不全)
F344/NSlsc-Apoe^{0/0}(大腸癌発症)
Gunn/Slc-*iji*(高ビリルビン血症)
Slc: WsRc-Ws/Ws(肥満細胞欠損血-*Kit^{gpr}*)

モルモット

- **アウトブリード**
Hos: Weiser-Maples(メラニン保有)
- **インブリード**
Strain2/Slc
Strain13/Slc

ウサギ

- **アウトブリード**
Slc: JWF-NIBS(ヘアレス)



日本エス エル シー株式会社
〒431-1103 静岡県浜松市西区湖東町3371-8
TEL(053)486-3178(代) FAX(053)486-3156
<http://www.jslc.co.jp/>

営業専用
TEL

関東エリア (053)486-3155(代)
関西エリア (053)486-3157(代)
九州エリア (0942)41-1656(代)

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

今道 友則	堀口 俊一	福田 英臣	池田 正之
加藤 隆一	白須 泰彦	黒岩 幸雄	井村 伸正
佐藤 哲男	渡辺 民朗	高橋 道人	榎本 眞
小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫	黒川 雄二
鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓
福島 昭治	津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫
大野 泰雄	上野 光一	山添 康	

[功労会員]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
菊池 康基	大沢 基保	今井 清	降矢 強
玄番 宗一	唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝
野村 護	牧 栄二	三森 国敏	佐神 文郎
遠山 千春	小野寺博志	杉本 哲朗	西田 信之
中村 和市	永沼 章	姫野誠一郎	眞鍋 淳

[賛助会員]

(五十音順)

●ダイヤモンド
 (株)新日本科学

●プラチナ
 第一三共 (株) Charles River

●ゴールド

旭化成ファーマ (株)	あすか製薬 (株)
アステラス製薬 (株)	(株)安評センター
EA ファーマ (株)	(株)イナリサーチ
エーザイ (株)	(株)LSIメディアエンス
大塚製薬 (株)	小野薬品工業 (株)
花王 (株)	一般財団法人化学物質評価研究機構
科研製薬 (株)	杏林製薬 (株)
協和キリン (株)	興和 (株)
三栄源エフ・エフ・アイ (株)	サントリー-MONOZUKURI エキスパート (株)
(株)三和化学研究所	塩野義製薬 (株)
(株)資生堂	シミックファーマサイエンス (株)
昭和電工 (株)	住友化学 (株)
(一財) 生物科学安全研究所	ゼリア新薬工業 (株)
千寿製薬 (株)	大正製薬 (株)
大日本住友製薬 (株)	大鵬薬品工業 (株)
武田薬品工業 (株)	田辺三菱製薬 (株)
中外製薬 (株)	帝人ファーマ (株)
(株) DIMS 医科学研究所	トーアエイヨー (株)
東レ (株)	(一社) 日本化学工業協会
日本香料工業会	日本新薬 (株)
ファイザー (株)	富士フイルム (株)
扶桑薬品工業 (株)	(株)ボゾリサーチセンター
Meiji Seika ファルマ (株)	持田製薬 (株)
(株)薬物安全性試験センター	ライオン (株)

[役員] (2020～2021年度)

理事長	菅野 純		
理事	青木 豊彦	上原 孝	小野 敦
	鍛冶 利幸	北嶋 聡	熊谷 嘉人
	古武弥一郎	児玉 晃孝	小林 章男
	佐藤 雅彦	鈴木 睦	高橋 祐次
	角崎 英志	苗代 一郎	平林 谷子
	藤原 泰之	宮脇 出	森 和彦
	吉成 浩一		
監事	天野 幸紀		
	務台 衛		

[学術年会長]

第47回 (2020年) 広瀬 明彦
 第48回 (2021年) 福井 英夫
 第49回 (2022年) 石塚真由美
 第50回 (2023年) 北嶋 聡

[委員会] (2020～2021年度)

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

●総務委員会 委員長 高橋 祐次
 ◆連携小委員会 委員長 北嶋 聡
 ◆評議員選考小委員会 委員長 佐藤 雅彦
 ◆名誉会員および功労会員選考委員会 委員長 高橋 祐次
 ◆指針値検討小委員会 委員長 広瀬 明彦
 ◆企画戦略小委員会 委員長 宮脇 出

●財務委員会 委員長 青木 豊彦
 副委員長 森 和彦

●編集委員会 委員長 鍛冶 利幸
 副委員長 古武弥一郎
 ◆JTS 編集委員会 委員長 鍛冶 利幸
 副委員長 古武弥一郎
 ◆FTS 編集委員会 委員長 永沼 章
 ◆Executive Editor 小委員会 委員長 永沼 章
 ◆田邊賞選考小委員会 委員長 諫田 泰成

●教育委員会 委員長 鈴木 睦
 ◆生涯教育小委員会 委員長 鈴木 睦
 ◆基礎講習会小委員会 委員長 高崎 陸 (10月まで)
 委員長 橋本 清弘 (11月から)
 ◆認定試験小委員会 委員長 古川 賢 (10月まで)
 委員長 福島 民雄 (11月から)
 アドバイザー 古川 賢 (11月から)

●学術広報委員会 委員長 児玉 晃孝
 ◆学会賞等選考小委員会 委員長 堀井 郁夫
 ◆佐藤哲男賞選考小委員会 委員長 熊谷 嘉人
 ◆特別賞等選考小委員会 委員長 熊谷 嘉人
 ◆技術賞選考小委員会 委員長 宮脇 出
 ◆日化協 LRI 賞選考小委員会 委員長 北嶋 聡
 ◆学術小委員会 委員長 石塚真由美
 ◆広報小委員会・HP 担当 委員長 児玉 晃孝

★その他関連の委員会
 ○ IUTOX 担当
 IUTOX Executive Committee, Director 熊谷 嘉人
 IUTOX Nominating Committee, Chair 菅野 純
 ○ ASIATOX 担当
 ASIATOX Council 小椋 康光
 ○ 日本学術会議担当 委員 石塚真由美

2020年 8月1日 印刷

2020年 8月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 鍛冶利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsothq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161